

平成 30 年度 大田区立熊谷恒子記念館 かなの美展 「やまとうたの風趣」の開催について

■ 展覧会概要

熊谷恒子は、昭和期に現代女流かな書家として書壇の第一線で活躍した人物です。恒子の書くかなは、平安時代の三蹟（能筆家）の一人として知られる藤原行成の筆跡《粘葉本和漢朗詠集》や《関戸本古今集》の臨書を繰り返すことによって会得した、平安古筆に違わぬ気品の高い美しい字を特徴としています。書の様式美だけではなく、平安時代の古典文学である『源氏物語』や『枕草子』をかなで抜き写した書や、『古今和歌集』など、平安の宮中で詠われた美しい和歌を恒子は多く書として残しています。

本展では、「やまとうたの風趣」と題し、恒子が「やまとうた」を題材とした書を中心に展示します。「やまとうた」とは、五、七、五、七、七の三十一文字で表現される詩、「和歌」を名指す言葉です。「やまとうた」は、平安時代に成立している家集である『古今和歌集』の序文の1つである「仮名序」の冒頭文「やまとうたは人の心を種として、万の言の葉とぞなりける。」に登場します。この序文は、『古今和歌集』の撰者の1人である紀貫之が和歌を集めた家集を編纂するにあたり、和歌の本質やその起源、その形式の成立などを解説している散文です。貫之によれば、「やまとうた」は人々の心を伝える詩、叙情詩であるとしています。和歌の多くは、四季の景色を詠む歌ですが、それは叙景詩ではなく、心情を映すための象徴表現としての叙情詩であると、貫之は定義付けているのです。そのような叙情詩を書く文字として、かなは発達しました。それゆえに、平安古筆を基調とした恒子のかな書は、平安時代の和歌とその歌に描かれた景色に秘められている叙情をより深く、豊かに伝えています。

展示予定作品は、『古今和歌集』の序文「仮名序」部分を書いた卷子《やまとうたは》昭和 10 年や、《ちはやぶる『古今和歌集』》昭和 32 年、《いそのさき『万葉集』》制作年不詳など約 18 点です。会期中に、「庭園公開」とワークショップの開催、ギャラリートークも予定しています。

■ 会期

平成 30 年 4 月 28 日（土）から平成 30 年 8 月 26 日（日）まで

開館時間：9：00～16：30（入館は 16：00 まで）

休館：月曜休館（4月30日（月・祝）と7月16日（月・祝）は開館し、その翌日に休館します）

入館料：大人 100 円、小人 50 円 ※65 歳以上（要証明）と 6 歳未満は無料

■ 会場

大田区立熊谷恒子記念館 大田区南馬込 4-5-15（交通案内は 3 ページをご覧ください。）

■ 関連イベント

○ギャラリートーク

当館学芸員が本展出品作品を解説します。事前申し込みは不要です。

5 月 4 日（金・祝）、5 月 26 日（土）、6 月 23 日（土）、7 月 28 日（土）、8/25（土）ともに 13:00 から（30 分程度）

○かな書ワークショップ

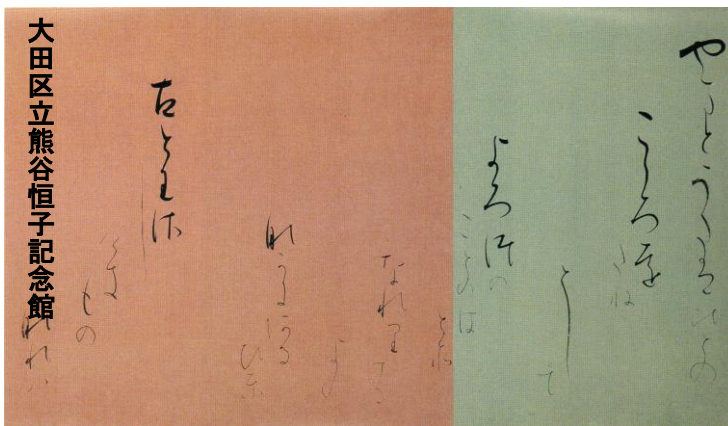
熊谷恒子記念館主催のかな書ワークショップを以下の日程で開催します。恒子の直弟子である講師を迎え、平安古筆に由来する恒子の美しいかな書を学べるワークショップです。

日程：8月10日（金）、11日（土・祝）

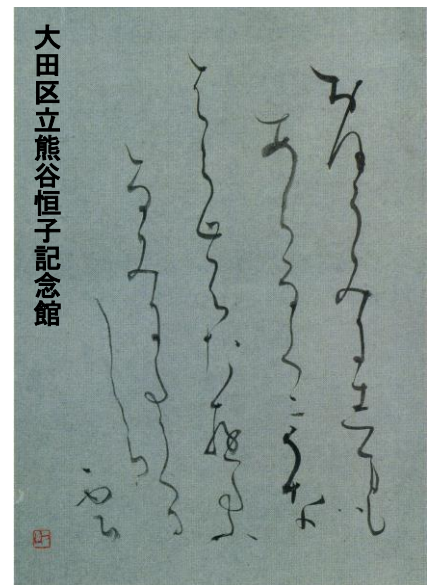
場所：大田文化の森 第1集会室

※詳細については、募集月である6・7月の財団情報誌「ArtMenu」もしくは当記念館HPをご覧ください。

■主な出品作品



《やまとうたは『古今和歌集』》1935年頃



《おほうみに『万葉集』》1973

■広報についてのお問合せ

本展をご紹介いただける場合にかぎり、作品画像をご利用いただけます。作品画像の使用に関しては、下記までお問い合わせください。

※作品画像のほか当館の外観の画像もご用意しております。

※使用に際しては、掲載内容・放映内容を事前に確認させていただきます。

※使用后、掲載誌および放映が記録されたメディアを見本として当館までご送付ください。

<お問合せ先>

大田区立熊谷恒子記念館 担当学芸員

〒143-0025 東京都大田区南馬込 4-5-15 TEL&FAX 03-3773-0123

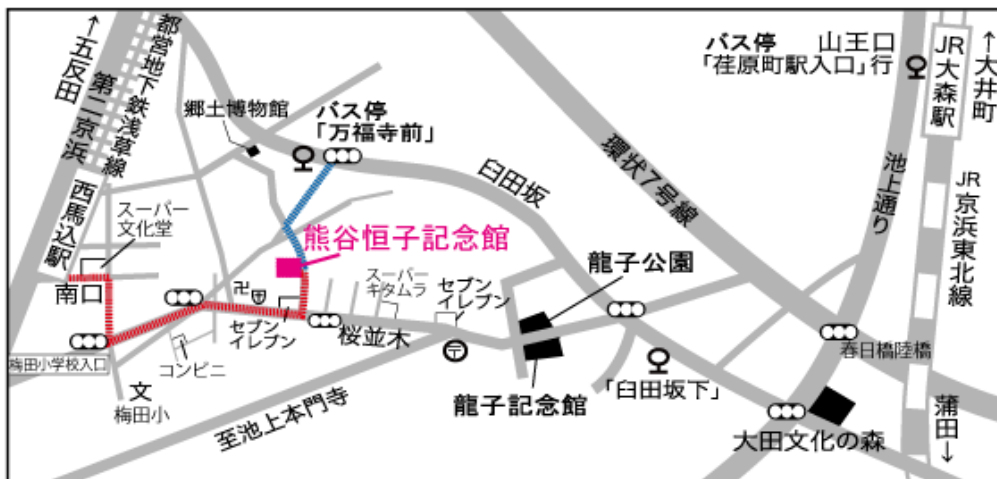
■交通

○JR京浜東北線 大森駅北口（山王方面）から

東急バス4番「荏原町駅入口」行乗車「万福寺前」下車、徒歩5分

○都営地下鉄浅草線 西馬込駅南口から

徒歩10分



■次回展予告

タイトル：「近代短歌とかな」（仮称）

会期：2018年9月8日（土）～12月9日（日）（予定）

※会期等は都合により変更される場合がございます。あらかじめご了承ください。